

# 常光寺々報

2023. 8

## 秋季彼岸会法要

九月二十三日(土)

朝十時～十二時

昼一時半～三時半

武蔵野大学学長

御講師 西本 照真 先生

お経本とお念珠をお持ちください。

光輪法座 九月四日(月)十時～

暑気払いを兼ねて、法座の後に

皆さんとお素麺をいただきます。

お寺のホームページからも

寺報をご覧いただけます。

下記QRコードよりお入り

ください。



厳しい暑さが続いてまいりますが、昔は「暑さ寒さも彼岸まで」と申しました。涼しさの訪れを彼岸花が咲いて教えてくれることでしょう。



西本先生はコロナ以来久しぶりのご出講を頂きます。優しいお人柄と優しい語り口、優しくかみ砕いてお話しただける内容のご法話と、三優な先生です。

どうぞ、皆さまも西方浄土、彼岸へ渡られた亡き方々を想い、この度のご縁を大切にお参りされ、ご聴聞いただきますよう、ご案内申し上げます。

## お寺の庫裡のリフォーム

昨年の寺報に庫裡の修理をしたと報告しましたが、それではすまなくなつてまいりました。

二〇年ほど前の本堂修復の折、耐震強度の簡易診断をしていただきましたが、早急な補強が必要とされました。あちこちガタが来ていたのは承知でしたが、本堂優先ということで後回しにしておりました。

時間をかけて計画したいところですが、今後法規制が厳しくなり、今やらなければ身動きが取れなくなるので、来年度中の工事に向けて、現在急いで話し合いをしております。新築は無理だそうなのでリフォームの形をとることになります。色々ご迷惑をおかけすることになります。ご理解とご協力をお願いいたします。

## お彼岸とは？

お彼岸になると、本山をはじめ全国のお寺で「彼岸会」が勤まります。大勢の門徒さんがお参りされることはいうまでもありませんが、その一方で、こうしたお寺での法要には関心を示さず、自分たちの先祖のお墓に参りさえすればよいと思っている方も多いようです。しかし、お彼岸の意味からすれば、今生きている「私」が仏法を聞かせていただかなくてはなりません。

お彼岸は、「ご承知のように年に二回、春分と秋分の日（お中日）をはさんで、前後一週間ずつあります。浄土教がさかんになると、西方に沈む夕日を眺めて、浄土に想いを馳せるようにもなりました。

彼岸とは、迷いの世界を此岸というのに対して、さとりの世界を表す言葉

で、お彼岸とか彼岸会という場合の彼岸は「到彼岸」の略、つまり「迷いの世界からさとりの世界へ到る道の実践」を意味します。

浄土真宗では、さとりに至るための修行はせず、また、日々のお念仏の味わいが重要なのですが、このお彼岸の間を「さとりの世界（浄土）へ到らしめてくださる阿弥陀さまのお徳を讃え、そのお心を聴聞させていただく仏縁」として大切にしています。

「彼岸」は「あの世」とイコールではありません。「迷いの世界である「あの世」にいる故人を慰める」のではなく、「真実の世界である浄土に生まれた故人を偲びつつ、自分自身がその浄土へ到る道であるお念仏の教えに耳を傾ける」ご縁の期間であり、法要なのです。

浄土真宗 〇 仏事のイロハ より抜粋

## 玄関のメダカ？エビ？

二年程前、メダカを頂きました。小さなメダカが一生懸命泳いでいる姿には心とませられました。

しかし、メダカを飼った経験がないため次々と死なせてしまい、仲間がないのは可哀そうだとその度に追加のメダカを買ってきては死なせるのを繰り返しました。

今では買い足すことも少なく元気に泳いでいるメダカですが、水槽の藻を食べてくれるからと買ったエビがいつの間にか大繁殖し、エビアレルギーの住職が何故エビを飼っているのかと思う程の量になってしまいました。

メダカのエサも横取りされており、何やら肩身が狭そうです。

お参りの折、玄関に寄った際は眺めてみてください。